

登録コード	T5A05300	開講年度	2026				
授業科目	建築設備演習(16T以降)					担当教員	高村 秀紀
英文授業名	A Seminar in Building Facilities					副担当	
単位数	1	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限	対象学生	建築学科3年生
講義室	工C3-300教室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】		
	2.5Tカリ, 2.3Tカリ						
	【22T～】専門分野における専門的学力が身についている。				・建築設備の基本的な仕組みを理解し、簡単な設備設計ができるようになる。		
	【22T～】専門的学力を基礎とし、的確な情報を収集・理解し、これを他の人に発信できる能力が身についている。				・毎回実施する演習課題について第三者にもわかりやすく取りまとめることが出来るようになる。 ・演習結果を第三者にプレゼンする能力を習得する。		
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。				・演習を通し、現在の建築設備をさらに省エネ化を推進するための課題を見つけ解決策を提案できるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	担当教員が高断熱・高気密住宅の工法開発、換気システム開発、温熱シミュレーションの実務経験を活かして講義を行う。 建築設備 で学習した内容の演習を行い、知識の定着を図る。						
(5)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 気象条件 第3回 計算条件の整理、各部位、隙間風による熱負荷計算方法 第4回 内部発熱や外気負荷の計算方法 第5回 空気線図の読み方、冷房時の空調機の処理プロセス 第6回 暖房時の空調機の処理プロセス 第7回 空気調和計画の整理 第8回 空気調和計画の整理 第9回 空調用熱源装置の仕様計算 第10回 空調用熱源装置の仕様計算 第11回 空気調和機的设计 第12回 ダクト設計 第13回 換気計算 第14回 自動制御の演習 第15回 まとめ 授業アンケート						
(6)成績評価の方法	演習課題とレポートと出席状況により評価する。ただし、講義内で行う演習点を適宜加点する場合がある。基本的に90～100点を秀、80～89点を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。						
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」						
(8)事前事後学習の内容	週1回の授業で2単位の授業（90時間の学修が必要） 授業時間30時間（2時間×15回）、自習学習時間60時間（4時間×15回） 講義前に毎回教科書を読むことが必要である。						
(9)履修上の注意	特になし						
(10)質問、相談への対応	講義終了後に受け付ける。						
(11)その他							
【教科書】	最新建築設備工学 井上書院						
【参考書】	徹底マスター 空気線図の読み方・使い方 ISBN：9784274102271 出版社：オーム社 価格：2,800円+税						